

回 覧

続 学校点描

ガラんとした校舎に、生徒の声が戻ってきました。

《最上町立最上中学校》

NO.9 R6. 8. 22

担当：校長

8月1日、2日に秋田県秋田市八橋運動公園において、東北中学校サッカー大会が開催されました。県制覇した本校のサッカー部が出場し、1試合目は福島県第2代表のいわき市立泉中学校サッカー部と対戦し、6-2で勝利しました。翌日に宮城県第1代表の柴田町立船岡中学校と準々決勝で対戦し、2-4で惜敗しました。最後まで全国の夢を見させてくれたサッカー部の生徒に感謝です。

8月4日（日）に、山形市のやまぎんホールを会場に、第63回吹奏楽コンクール山形県吹奏楽コンクールが行われ、最上中吹奏楽部は中学校小編成の部で銀賞に入賞しました。審査員を悩ませる接戦でした。

8月6日（火）に福島県いわき市いわき市立総合体育館において、東北中学校柔道大会が開催されました。本校柔道部の黒坂 楓さんが男子個人66kg級に出場し、準々決勝で惜敗しました。勝利の結果の報告が入るたびに教育委員会の方々が喜んでくれています。

8月16日（金）に最上町「二十歳の集い」に出席してきました。私が4回目の最上中学校に赴任した時の最後の年の卒業生たちです。卒業式から5年を経た83名の成人となった卒業生たち。成人となった姿から、今を懸命に生きる大切さを教えられます。

7月25日の大雨災害は、本町にも大きな爪痕を残しました。被災された方々には、心よりお見舞い申し上げます。国道も寸断され、学校に行きたくても行けない日々がありました。ようやく尾花沢経由で行けるようになった時、体育館下の武道館の畳は床上浸水していました。教頭先生と校舎外を確認していると、二人の女子生徒が花壇の水やりに学校に来てくれていました。なんだか、心が温まります。

羽ばたく紙飛行機

8月21日（水）は、2学期の始業式の日でした。始業式ですので、1時間目は全校生徒が体育館に集まり、簡単な式を行います。まだまだ室温が高い状況です。応援団長の結城道瑛さんが、生徒の椅子の間隔をもっと広くするように指示をだしています。

夏休みが終わった翌日であり、室温が高い中での環境では、聞く生徒の側も、なかなか厳しいものです。それでも役目なので、2学期に生徒ひとり一人に意識してもらいたいことを話さなくてはなりません。



話しの中で紙飛行機を飛ばそうと思ったのは、この夏季休業期間に興味深い紙飛行機と出逢い、自宅で何機も作って研究したからです。紙の厚さや、羽の角度を調整すると、まるで鳥の

ように羽ばたいて飛ぶ紙飛行機です。

式の話の中で、紙飛行機を飛ばす前に、暑い中でも大人しく椅子に座っている生徒にむかって、「紙飛行機が近くに飛んで来て、この飛行機を面白いと思ったらもらってもいいですよ。関心がなかったらあとで担任の先生に返してください」

そんなことを言って、5機の羽ばたく紙飛行機を飛ばしました。



『二十歳の集い』では、式辞、祝辞のあとに、成人代表として奥山実行委員長の話がありました。

「ふるさとを離れて働いていましたが、いろいろあって今は地元にもどって働いています。これまで以上に、故郷の良さや仲間の大切さを感じてきました・・・」

まぶしいほどの金髪でスーツ姿の彼には、中学生の面影はなく、社会で揉まれながら真摯に頑張っている様子が伝わってきます。5年前に巣立っていった目の前の卒業生。いくら美しく着飾っていても、それぞれの日常には決して理想の生活を掴むことはできていない、だれもが辛さや悲しみを抱きながら、それでも明日の自分を夢見ている、そんな姿にわたしには映りました。

始業式に目の前に並ぶ生徒たちも、5年後～7年後には、また中央公民館に集まり、さまざまに着飾って同じように座っているのでしょう。その時、自分の人生のコントローラーは自分で握ってほしい。そのためには、探究心をもって、決してしらけずに、いろいろなことに関心をもって世の中を見つめてほしい。それが式で話したかった真の中身です。

紙飛行機は思った以上に遠くに飛ばないで、ステージの下に着陸しました。式も終了して、新任の柏倉瑠翔先生に落ちた紙飛行機を拾って校長室に持ってきてもらいました。

戻ってきた紙飛行機を数えてみたら4機でした。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。